

原爆投下の日に、広島を訪問 戦争・平和と向き合う3日間

平和学習派遣事業が8月5日から7日に行われ、各小学校6年生の代表児童5人が参加しました。

児童らは、広島市の平和記念式典に参列し、市長による平和宣言やこども代表の平和への誓いを聞き、原爆の子の像に千羽鶴を奉納。被爆者体験講話では、当時の惨状を語る生の声に触れることができました。また、広島平和記念資料館では、戦争や原爆の悲惨さを物語る資料を目の当たりにし、現実起こった出来事と真剣に向き合うなど、児童らは、戦争の恐ろしさや平和の尊さを熱心に学びました。



1_原爆ドーム 2_原爆の子の像に千羽鶴を奉納 3_大和ミュージアム 4_広島平和記念資料館 5・6_平和学習派遣事業報告会

voice

醸芳小 曳地 璃梨 さん



平和学習で学んだ最大のことは、現在の当たり前の日常が非常に幸せであるということです。広島での平和サミットや資料館見学、原爆ドームの視察を通じ、一発の原爆が多くの人々の命や生活を奪った悲惨な現実を知りました。また、真の平和とは人々が幸福で自由を感じられることだと理解しました。この経験で得た平和の尊さを家族や友人、後世へ語り継ぎ、核のない平和な世界の実現に向けて行動したいです。

voice

半田醸芳小 佐々木 創太 さん



広島平和学習を通じて、主に3つの大切なことを学びました。1つ目は戦争や原爆の恐ろしさで、今も苦しむ人がいることから戦争は絶対にいけないと強く感じたことです。2つ目は、世界中の人々が安心して平等に生きるための対話の重要性です。3つ目は、日本が被害者だけでなく加害者でもあった歴史です。戦争の悲惨さを知る私たちが記憶を受け継ぎ、誰もが平和に生きる世界を作りたいです。

voice

醸芳小 吉田 晶輝 さん



広島での原爆投下や資料館の展示から、一瞬で日常を奪う戦争の恐ろしさを深く学びました。また、子ども平和サミットで被爆体験講話を通じ、二度とこんな悲惨なことを起こしてはならないと強く実感しました。世界には核兵器を持つ国もありますが、平和な未来につなげていくことが大切です。戦争の悲惨さや平和の尊さを忘れず、核兵器のない未来を作るためにできることを考えていきたいです。

voice

伊達崎小 大橋 広希 さん



テレビで広島での式典を見たことがあるものの、当時は原爆の恐ろしさを詳しく理解できていませんでした。しかし、平和学習での資料館見学や被爆者の話、そして今回の式典参列を通じ、放射線による多大な犠牲や凄惨な現実を知り衝撃を受けました。当たり前の日常が幸せであること、そして戦争はそれを一瞬で奪うことを深く学び、二度と戦争や核兵器が使われないよう、平和の大切さを伝えていきたいです。

voice

睦合小 佐藤 彩結咲 さん



平和記念式典への参列や子ども平和サミットを通じ、真の平和とは争いのないことだけでなく、全ての人に安心と幸せが当たり前にあることだと気付かされました。また、被爆者の体験談や資料館の見学から、原爆の恐ろしさと残酷さを深く学びました。この歴史を他人事ではなく自分のこととして捉え、二度と過ちを繰り返さないため、これからは、戦争・平和について真剣に考え、自分と重ねて向き合っていこうと思います。